

三崎魚市場に水揚げされた魚類 - X III

山田和彦・工藤孝浩

Kazuhiko Yamada and Takahiro Kudo:
Landing Fishes of Misaki Fish Market Landed from Sagami Bay, X III

Summary: Ichthyofauna of Sagami Bay has been researched, and 553 species has been recorded since 1986. In the present paper, five species are additionally recorded. *Pempheris nyctereutes* (Pempheridae) is of rare occurrence in the Bay.

はじめに

筆者らは相模湾の魚類相を明らかにするために、三崎魚市場において周辺海域の漁獲物調査を継続している。これまでに553種を記録したが(山田・工藤, 2003), 新たに記録された5種について報告する。

調査方法

三崎魚市場に水揚げされる魚類のうち、相模湾で採集されたものについて、種類、採集場所、採集方法を記録した。調査期間は2002年10月から2003年9月までの1年間である。1ヶ月平均3回、合計33回の調査を行った。ここでいう相模湾とは、伊豆半島石廊崎と房総半島洲崎を結んだ線以北のうち、観音崎-富津岬以北の東京湾を除く海域である。採集場所の名称を図1に示す。標本として採集した魚は、新鮮なうちに写真撮影したのち10%ホルマリンで固定した。標本は横須賀市自然・人文博物館に魚類

資料(YCM-P)として登録し保存した。

海況について

調査期間中の相模湾付近における海況は概略次のとおりであった。

黒潮は、10~1月に直進・接岸型で三宅島付近を流れたが、この流路は2001年1月から1年以上持続した。2~7月は直進基調ながら数度にわたり小蛇行が通過し、6月には2002年5月以来久しぶりに八丈島の南側を流れた。8、9月には再び直進型に戻り、三宅島付近を流れた。

相模湾の水温は2月まで平年に比べて2℃以内の幅で高温・低温を繰り返していたが、3月上旬に小蛇行の東進に伴って湾内に暖水が波及し、平年比3℃以上の高温となり、5月上旬~7月上旬は継続的に平年比1~2℃高めで経過した。また、8月中旬には冷夏の影響で平年を3℃近く下回る22℃台が記録された。

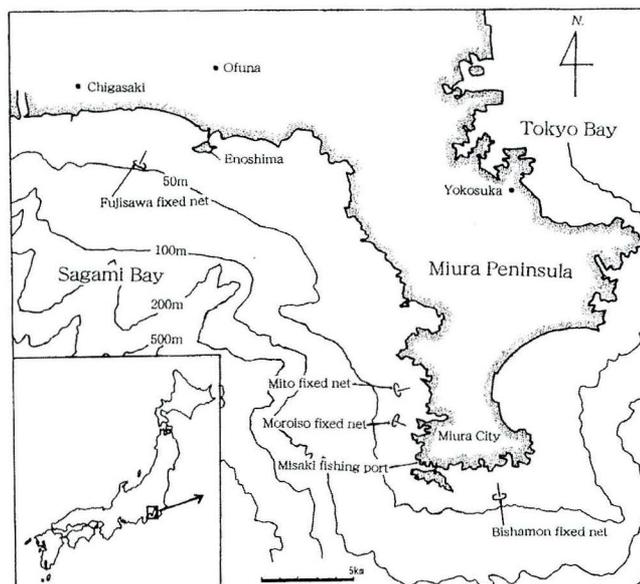


図1. 採集地点。(Map showing collection localities in Sagami Bay.)

調査結果

新たに記録された魚類について、通し番号、和名、学名、図版番号、採集年月日、採集場所および採集方法、体長 (SL)、登録番号、分布記録などの順に記載した。和名、学名および一般的な分布記録は中坊編 (2000) に従った。

554. ウグイ属の一種 *Tribolodon* sp. (図2-1)
2003年5月14日、三戸定置網, SL;670mm,
YCM-P42163

ウグイ属の魚類は、鰓蓋下顎管と眼下管が連続するか否かにより識別される。しかし、感覚管は大型個体であってもかなり細い。本個体は、固定後に観察したため、感覚管が不連続なのか、粘液が固まり管を塞いでいるのか確定できなかったため、ウグイ属の一種とした。相模湾からはウグイ属魚類の記録はないが、相模湾に流入する相模川の汽水域からはウグイの記録がある (長峯・山口, 1980)。また、近年東京湾に流入する多摩川に遡上するマルタが増えていることがテレビなどで報道されている。

555. アサヒアナハゼ *Pseudoblennius cottoides*
(図2-2)
2003年3月30日、毘沙門定置網, SL;32.8mm,
YCM-P42169

北海道南西部以南に分布する。相模湾では、潮間帯の岩礁でふつうに見られ、毘沙門 (中村, 1970)、三浦半島南西部 (工藤・岡部, 1991)、荒崎 (中村, 1970)、天神島 (林, 1995)、芝崎 (萩原・長谷川, 1990)、田ノ浦 (東ほか, 1989) などから記録がある。定置網で漁獲されることは稀である。

556. ミエハタンポ *Pempheris nyctereutes*
(図2-3)
2002年10月6日、毘沙門定置網, SL;104.6mm,
YCM-P39989

相模湾以南に分布するとされる。しかし、相模湾からはTominaga (1963) が油壺および真鶴産の標本を報告したのみである。著者らによるこれまでの調査でも記録がなく、相模湾では極めて稀な種と思われる。

557. イトベラ *Suezichthys gracilis* (図2-4)
2003年3月30日、藤沢定置網, SL;126.2mm,
YCM-P42176

沖縄県を除く南日本から、朝鮮半島、オーストラリア南東部に分布する。相模湾では天神島 (林, 1995)、剣崎沖 (工藤・山田, 2001) から記録がある。

558. イトヒキハゼ *Cryptocentrus filifer*
(図2-5)

2003年7月13日、藤沢定置網, SL;61.8mm,
YCM-P42168

千葉県から九州、インド・西太平洋に分布する。相模湾からは天神島 (林, 1995) から記録がある。

補足

ツボダイ *Pentaceros japonicus* (図2-6)

2003年6月15日、三戸定置網, SL;61.3mm,
YCM-P42177

山田 (1990) で報告したものは、キンメダイ漁で釣獲された TL 約 20cm の個体であった。今回の個体は、定置網で漁獲されたもので、本種の幼魚特有の斑紋が見られる。

おわりに

本報告を作成するに当たり、標本登録の便を図ってくださった横須賀市自然・人文博物館の萩原清司氏、ハタンポ類の文献をご教示いただいた横須賀市自然・人文博物館館長林 公義氏、ウグイ類についてご教示いただいた相模湾海洋生物研究会の木村喜芳氏、資料収集にご協力いただいた丸夕丸、丸共丸、共栄丸、諸磯丸、万七丸、三崎沿岸漁業協同組合ほかの方々に深く感謝する。

文献

- 萩原清司・長谷川孝一, 1990. 葉山町芝崎周辺の沿岸魚類. 神奈川県自然誌資料, (11):103-110.
- 林 公義. 1995. 天神島自然教育園海域の魚類相. 横浜国立大学環境科学センター紀要, 21(1):243-258.
- 東 禎三・林 公義・長谷川孝一・足立行彦・萩原清司, 1989. 伊豆半島須崎、田ノ浦湾周辺海域の魚類. Bull. Coll. Agr. & Vet. Med., Nihon Univ., (46):175-185.
- 工藤孝浩・岡部 久, 1991. 三浦半島南西部沿岸の魚類. 神奈川県自然誌資料, (11):29-38.
- 工藤孝浩・山田和彦, 2001. 三浦半島南西部沿岸の魚類 - IV. 神奈川県自然誌資料, (22):33-42.
- 長峯嘉之・浜口哲一, 1980. 相模川汽水域の魚類相. 平塚市博物館研究報告「自然と文化」, (3):21-32.
- 中坊徹次編, 2000. 日本産魚類検索 全種の同定 第2版. 東海大学出版会, 東京.
- 中村一恵, 1970. 相模湾沿岸のタイド・プール魚類. 神奈川県立博物館調査研究報告 (自然科学), (1):1-33. 12pls.
- Tominaga, Y., 1963. A revision of the family Pempheridae of Japan. J. Fac. Sci. Univ. Tokyo, Sec.4, 10(1):269-290.
- 山田和彦, 1990. 神奈川県三崎魚市場に水揚げされた魚類. 神奈川県自然誌資料, (11):95-102.
- 山田和彦・工藤孝浩, 2003. 神奈川県三崎魚市場に水揚げされた魚類・XII. 神奈川県自然誌資料, (24):65-66.

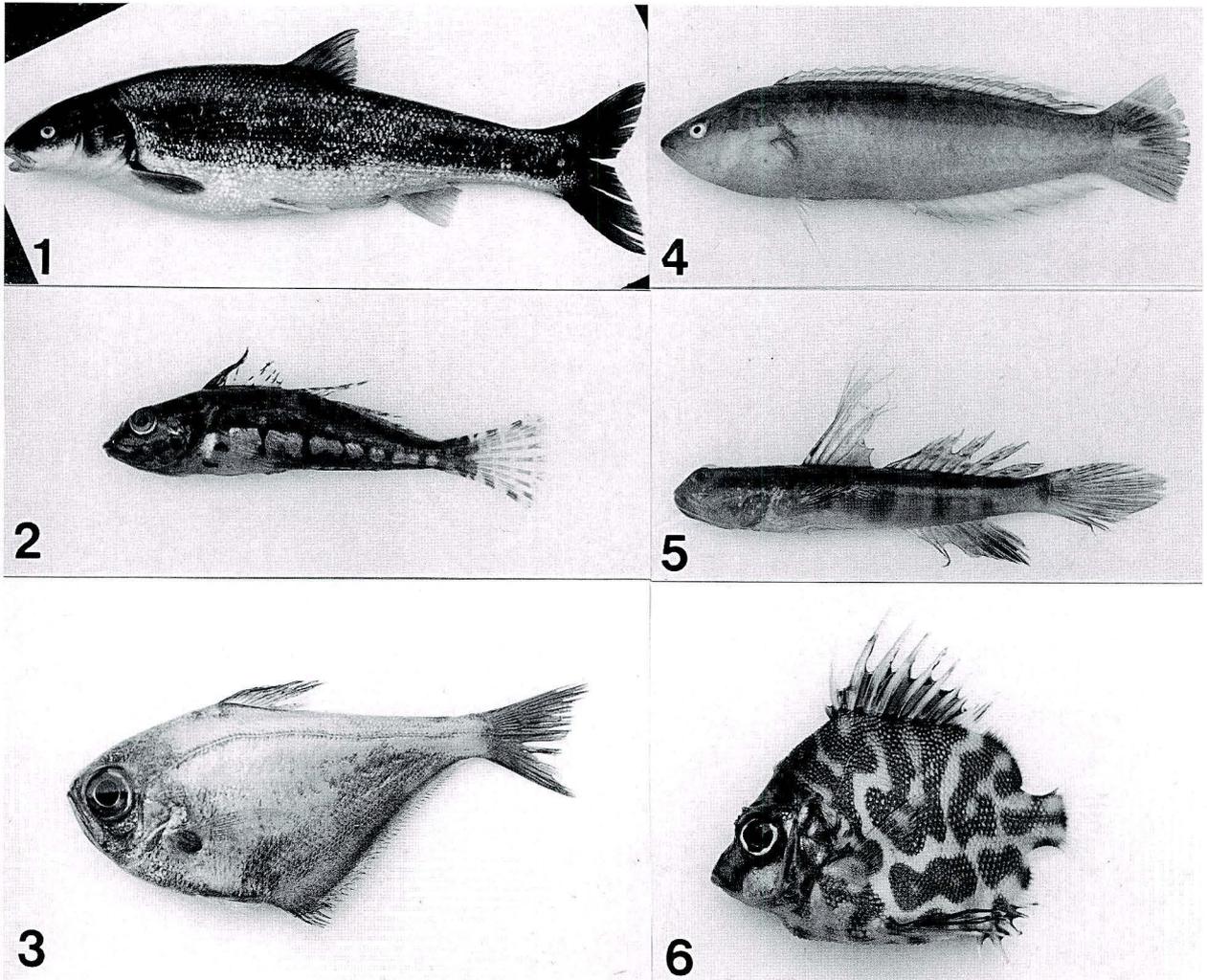


図2. 2-1:ウグイ属の一種 *Tribolodon* sp., YCM-P42163, SL670mm; 2-2:アサヒアナハゼ *Pseudoblennius cottoides*, YCM-P42169, SL32.8mm; 2-3:ミエハタンボ *Pempheris nyctereutes*, YCM-P39989, SL104.6mm; 2-4:イトベラ *Suezichthys gracilis* YCM-P42176, SL126.2mm; 2-5:イトヒキハゼ *Cryptocentrus filifer*, YCM-P42168, SL61.8mm; 6:ツボダイ *Pentaceros japonicus*, YCM-P42177, SL61.3mm.

(山田：相模湾海洋生物研究会,
工藤：神奈川県水産総合研究所)